

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

単位制で培った一人ひとりの個性を大切にす長吉高校の教育力をさらに向上させ、エンパワメントスクール総合学科の枠組みを活用し、すべての生徒を「地域を支える人材」として育成できる学校づくりをめざす。

2 中期的目標

1 基礎・基本の定着と「わかる授業」づくり

(1) 共感から始まる「わかる授業」づくりをめざした校内体制の強化を図る。

ア 授業研究や公開授業週間を積極的に展開し、各教員が「わかる授業」づくりのための授業改善に取組み、生徒の基礎学力の向上を図る。

イ モジュール授業等で学習のつまづきを取り除き、基礎・基本の定着に努める。また、基礎学力の到達度を3年間通じて追跡する。

ウ 教員の話す力などのコミュニケーション力を含めた「授業力」の向上を図る。

エ 電子黒板とタブレット端末などのICTを活用し、学ぶ楽しさを味わえる「わかる授業」を展開する。

オ 授業のユニバーサルデザイン化（視覚化・構造化・協働化）を進める。

※生徒向け学校教育自己診断における「授業がわかりやすい」を平成30年度には75%にする。(平成27年度 単位制70%、エンパワメント64%)

2 安心で魅力ある学校づくり

(1) 単位制生徒の学校生活への満足度を高める。

ア 単位制を閉じる平成29年度末に向けて、単位制生徒を一人でも多く卒業させる。

イ 未登録や29年度末までに卒業できない生徒については、生徒一人ひとりの状況を把握し、修学指導及び進路変更のサポートを行う。

(2) エンパワメントスクール総合学科の改編を推進する。

ア 従来の分掌体制を刷新する。

イ 学級経営を含めた担任としての力量の向上を図る。

ウ モジュール授業及び3年間のエンパワメントタイムなどの内容等について、教材の作成及び取組みの継続とスムーズな運営を行う。

(3) 生徒の居場所がある学校づくりを通じてのセーフティネットの拡充を図る。

ア 「面倒見の良い学校」づくりをめざす。「気づきシート」「教科アンケート」を通じて、教員の生徒情報共有会議を密接に行う。

イ 「高校生活支援カード」の活用を通じて、様々な背景を抱える生徒を学校全体で受け止め、支援、育成する体制づくりを進める。

ウ 魅力ある学校行事への改善を進める。

エ 生徒による図書委員会を活用し図書室の活性化を図る。

オ 部活動の活性化を図る。

カ 保健室、カウンセリングルーム、関係機関との連携を利用することで、ピアプレッシャーに弱い生徒の居場所を確保する。

キ 生徒も一緒に清掃活動を行うことで施設を大切に使用する意識を育てる。保健委員の委員会活動を活発にする。

(4) 出口を保障する学校づくりを推進するための本校独自のキャリア教育の確立を図る。

ア 外部人材を活用しながら、入学から卒業後の進路を見通したキャリア教育を計画的に推進し、卒業生徒の増加と進路未定者を減少させる。

※3年間で就職内定率を100%めざす。(平成27年度の就職内定率は84.6%)

イ 参加・体験型の授業実践を工夫し、生徒のコミュニケーション能力やプレゼン能力の向上を図り、円滑な人間関係の構築を支援する。

ウ 問題行動の未然防止に取組むとともに、社会人としての態度・マナーを育成する。

エ 実用的な技能・資格の取得者の増加を図る。

(5) 人権教育、特に国際理解教育・多文化共生教育を推進する。

ア 教員のアンテナを常に高くし、人権感覚を研ぎ澄ますことで差別の未然防止に努める。

イ 多様化する渡日生、帰国生の母語保障及び日本語教育を推進する。

ウ 大阪のモデルとなるような多文化共生の学校づくりをめざす。

(6) 本校と専門学校・短大・大学との連携を進める。

ア 大学等と連携しながら、学校行事や授業、生徒の学習支援、進路支援等とつながるような学校体制を構築する。

3 積極的な情報発信

(1) 中学校や地域・保護者への広報活動を強化する。

ア エンパワメントスクール総合学科の授業等を積極的に公開するとともに授業や行事等の高校生活によろすを学校説明会やHP等を通じて広報活動を行う。また、エンパワ生徒を通じて中学校へ広報活動を行う。

イ 単位制生徒のがんばっている姿や様子をHP等により発信する。

ウ 生徒が地域等へ出かけていく取組み（ボランティア活動等）を進める。

エ 本校の国際的な人材資源を活用し、小中学校と協働して多文化共生の社会づくりを推進する。

(2) エンパワメントスクールにおける学び直し（とりわけ英・数・国）を推進するために地域の中学校等との連携を深める。

ア 近隣の中学校等と授業見学や教科指導について情報交換し、効果的な学び直しの手法等について研究する体制づくりをめざす。

4 ICT等を活用した校務の効率化と学校力の向上

(1) 校務処理システムやICTの活用を図り、生徒情報の一元管理を実現するとともに、教職員の事務作業に係る時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。

(2) ミドルリーダーの育成及び初任者や経験年数の少ない教員の育成を図り学校力を高める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【生徒向け】 <単位制生徒> ・平成 29 年度、単位制を閉じる中、「先生は悩みや相談にいていねいに応じてくれる」昨年 73%から 58%へ。単位制生徒が減る中で、生徒の悩みや相談によりいていねいに応じていく必要がある。</p> <p><エンパワメント生徒> ・「授業はわかりやすい」は 63%で目標の 70%に達しなかった。特に 2 年生は昨年 64%であったのが 61%へ下がっている。2 年次からは授業内容が高度になり、生徒に合っていない。生徒の到達度に合わせて授業内容を理解できる工夫が必要である。</p> <p>【保護者向け】 <単位制保護者> ・「いていねいな進路指導」の項目は 76%。「チューターに相談しやすい」では 60%。単位制を閉じる年度を迎えるに当たり、最後の進路指導と教員の相談しやすさの格差を解消し、さらに高める必要がある。</p> <p><エンパワメント保護者> ・「エンパワメントスクールの教育方針を伝えている」では昨年度 71%が 64%に。より一層いていねいな情報提供が課題である。</p> <p>【教員向け】 ・「生徒や保護者の意見を聞く姿勢がある」93%と高いが、生徒、保護者の「担任等と相談しやすい」は 50%～60%で教員の意識とは差がある。この差を埋める取組みが課題である。</p>	<p>第 1 回(6/4) ○H28 学校経営計画について ・エンパワメントスクールは将来 10 校できる。長吉の特色を出していかなければならない。外国にルーツのある生徒たちを学校の特色にどう位置付けるかは大きな問題。学校の目標を生徒に顕在化していくことが大切。 ・地元の中学校から志願者が増えるのは良いことであるが、生徒の満足度が低いといけない。</p> <p>○わかる授業づくりについて ・課題を持つ生徒には目を合わせることが重要。先生の会話、対話が大切。 ・課題を持つ生徒は子ども時代の良い思い出が少ない。粘り強く色々な指導を工夫する。怒鳴っても信頼されているから反抗されない教師がいる。日常の姿勢が大事。</p> <p>○単位制生徒の状況 ・単位制生徒の満足度を高めることは大切。</p> <p>第 2 回(11/18) ○公開授業を通じた授業改善の取組みについて ・授業中寝ている生徒がどのように学校生活を送ってきたのか問題。4 月最初から寝ていたのではないと思う。授業規律をより高いものに引き上げていくことが重要。 ・担任業務は多忙。生徒と緻密にコミュニケーションをとらないといけない。生徒同士でコミュニケーションが取れるようになってくると学級経営上達成感がある。</p> <p>第 3 回(1/28) ○校則について ・生徒は校則の内容を厳しいと感じているようだ。 ・今は学校がしつけを引き受けている側面がある。</p> <p>○その他 ・受験生も単位制に比べ増加傾向。学校もよくなっている。このまま頑張っていたきたい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎・基本の定着と「わかる授業」づくり	(1) 共感からはじまる「わかる授業」づくりをめざした校内体制強化 ア 共感からはじまる「わかる授業」づくりのための授業改善の取組み エ ICTを活用し「わかる授業」の展開 オ 授業のユニバーサルデザイン化の推進	(1) ア 共感からはじまる「わかる授業」づくりのPT(各教科の中心教員で組織)を中心に、本校生徒の学習状況(実態)をもとに、それぞれの教科における従来の授業の見直しを行うとともに、教科ごと及び教科を超えた取組の工夫を提案し教員全体で共有できるようにする。 エ 校内研修を通じて電子黒板を活用できる教員のすそ野を広げる。また、電子黒板の効果的な使い方について、先進的な取り組みを実践している教員が講師になり校内研修を実施する。 オ 大阪大谷大学の小田先生からご教示いただいた授業におけるナチュラルサポート(①～⑫)を実践する。①教室環境を確認する。②教科書、ノート等必要なものを机の上においているか確認する。③授業のめあてを書き本時のポイントを示す。④全員が静かになったことを確認してから話し始める習慣をつける。⑤板書を工夫する。⑥今は「聞くとき」と「書くとき」「話すとき」を区別し、同時に提示しない。⑦大事なところは、何度か繰り返し説明する。⑧視覚的に示すことはできる教材・教具を多用する。⑨生徒の努力や取り組みをほめる機会を多くつくる。⑩本時のポイントを復唱し、まとめ、振り返りを行う。⑪授業の中で何度かリスタートの場面をつくる。⑫全体への説明や指示はできるだけシンプルにする。	(1) 経営計画で策定した取組計画を推進し、長吉の学校力を高めるため定期考査期間を活用し年 4 回以上の教員研修を実施する。研修は教頭、学年主任、リーダーが中心となって企画し年 2 回の授業担当者会議(エンパワ、単位制別)と連動させ実施する。 ア ・他のエンパワメントスクール及び「わかる授業」づくりを推進している先進校を訪問し、授業見学とともに各校の取組みを聞き取り、報告会をもつ。 ・公開授業週間を年間 2 回以上実施する。 ・自己申告票に「わかる授業づくり」の工夫を全員が設定目標として入れる。 ・学校教育自己診断結果における「授業のわかりやすさ」に対して「そう思う」「ややそう思う」併せての回答を 70%以上をめざす。【昨年度：単位制 70%、エンパワメント 64%】 エ ・電子黒板設置教室の授業活用率 80%以上をめざす。 【昨年度 73%】 ・電子黒板活用のための校内研修を実施する。 オ ・授業におけるナチュラルサポートを意識した授業実践を教科会議を活用して行う。各自で振り返り行う。 ・「授業におけるナチュラルサポート」を意識した授業ができていくか確認するために、学校全体でアンケートをとり、「そう思う」「ややそう思う」併せて 70%以上をめざす。 教科主任会議で確認アンケートを企画、作成する。 ・生徒理解のための校内研修として、年間 2 回の授業担当者会議を活用する。	・「わかる授業」づくりをめざし、授業担当者会議に連動し 1 月に教員研修を実施した。当初計画では定期考査ごとに年 4 回を予定したが教員のゆとりを考慮し外部講師を昨年度に引き続き小田先生に来ていただき効果的な研修取組みを行うことで 1 回にした。(△) ア・他のエンパワメントスクール訪問は実施した。2 月の職員会議を活用し報告会を実施(○) ・公開授業週間は 3 回実施(◎) ・「わかる授業」づくりを組織目標とし、全員が「授業力」区分の中で設定目標として取り入れた(◎) ・学校教育自己診断の結果は 63%(△) エ・学校教育自己診断の結果は 76%(△) ・新転任者を対象に電子黒板等の活用研修を実施した(○) オ・学校経営計画にナチュラルサポートを位置づけ組織的に取組んだ(○) ・学校教育自己診断の結果は 72%(○) ・前期後期それぞれ 1 回ずつ計 2 回授業担当者会議を開催した(○)

府立長吉高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 安心で魅力のある学校づくり</p>	<p>(1) 単位制生徒の満足度高める ア 単位制生徒の卒業率の引き上げと未登録生徒への対応</p> <p>(2) エンパワメントスクール改編の推進 ア 分掌体制の刷新</p> <p>ウ モジュール授業及びエンパワメントタイム等の取組み</p>	<p>(1) ア 単位制生徒の授業への出席率をあげ、単位修得率を向上させて、卒業者を増やす。 単位制生徒の卒業生を増やすために、具体的な手立てとして追試の条件を緩和し年2回の追試を行う。</p> <p>イ 「単位制授業担当者会議」を実施し生徒状況の情報共有を行う。</p> <p>(2) ア エンパワメントスクールの学年制に合わせて、教頭を中心とし分掌体制の再構築を行う。</p> <p>ウ ・「エンパワ PT」を中心に、エンパワメントタイム等について教材の作成、継続的に取組み、スムーズな運営を行う。</p> <p>・モジュール授業等については、教材の時点修正を行う。また、各教科において、生徒につけたい学力の目標を決め、定点観測を行うとともに、定期的に指導方法等の修正を行う。</p>	<p>(1) ア・単位制生徒の単位修得に向けた情報共有の取組みとして、「卒業年次に関わる教員の会議」を年間2回以上もつ（上掲の授業担当者会議の卒業年次会議を活用する）。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業に集中させる指導を昨年度に引き続き全教員で行う。 成績不振の生徒の保護者と生徒の状況について共有する機会を適宜もつ（上掲の授業担当者会議の卒業年次会議を活用する）。 管理職も協力しての保護者懇談を適宜実施する。 未登録生徒への連絡確認を夏休みまでに行うとともに、連絡が取れない生徒へは夏休み中に家庭訪問を行い状況確認のうえ対応する。 <p>イ・年間2回、中間考査終了後に「単位制授業担当者会議」を実施する（上掲の授業担当者会議の卒業年次会議を活用する）。</p> <p>(2) ア・H30年度の単位制からエンパワメント総合学科への完全移行に向け、学年制に即した分掌体制の在り方に係る諸課題を運営委員会を活用して検討する。</p> <p>(3回/学期)</p> <p>ウ・エンパワメントタイム等の満足度をアンケート等によって図る。エンパワメントタイム等の満足度について、「そう思う」「ややそう思う」併せて70%以上をめざす。アンケートはエンパワ PT で作成し、どのように実施するのか検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語・数学・国語のモジュール及び社会入門、理科入門については、各教科内で前期中間考査までに、生徒につける学力の到達度を決めるとともに、前後期末に見直しを行い、達成できるように定期的に指導方法等の修正を加える。また、教科内で教材の時点修正及び共有化を図る。 上記の教科において教科会議を活用し、定点観測を行う。定点観測方法の企画、実施は教頭を中心に情報管理部と教科が連携し行う。 	<p>ア・2回の授業担当者会議を活用し担当教員による、卒業年次生徒の単位修得状況の情報共有を行った(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度当初の授業申し合わせ会議などを活用し今年度も全教員で携帯電話指導などを行い効果を上げた(◎) 管理職が入り成績不振生徒への指導を年間計画に位置付け2月に実施(○) エンパワメント、単位制ともに懲戒の申し渡し時を活用し実施(○) 未登録生徒への対応は年間通じて計画的に対応した(○) <p>イ・単位制授業担当者会議を年間2回実施した。(○)</p> <p>ア・運営委員会で年度末に集中的に検討した(○)</p> <p>ウ・エンパワ PT でアンケート作成し各学年 LHR で年度末に実施(○) ※ 満足度 H28；70%(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 到達度の設定は行ったが、各教科での学期ごとの見直しは行えていない教科もある(△)
	<p>(3) セーフティネットの拡充 ア 「面倒見の良い学校」づくりをめざす</p> <p>ウ 学校行事の改善</p>	<p>(3) ア 個々の生徒・保護者に応じたきめ細かな指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 特に1学年は早期に生徒・保護者との面談を行うとともに出身中学校との連携を密にする。 担任等は生徒の出欠状況の把握を行い、出席率の低い生徒や長期欠席者等を中心に早期に保護者と連絡をとる。5月連休明け、夏休み明け、後期の早い段階、冬休み明けの生徒の出欠状況に応じて、生徒や保護者との懇談や家庭訪問を行う。 <p>ウ 単位制と学年制の学校行事との調整を生徒部と学年、年次間で図るとともに、生徒が積極的に取り組めるような学校行事に改善する。とくに単位制の生徒の学校行事への満足度を向上させる工夫をする。</p>	<p>(3) ア・1年生は4～5月に生徒・保護者との懇談期間を設ける。また、出席率の低い生徒には状況に応じて保護者懇談や家庭訪問を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生については、高校生活が円滑にいくよう中学校ヒアリングを行うとともに、問題事象の状況に応じて中学校と連携する。 「先生は悩みや相談にいていねいにしてくれる」(生徒用)項目について、「そう思う」「ややそう思う」併せて70%以上をめざす。【昨年度：1年生：64%、単位制：73%】 「担任等に相談しやすい」(保護者用)の項目について「そう思う」「ややそう思う」併せて70%以上をめざす。【昨年度：1年生：64%、単位制：77%】 <p>ウ・生徒対象・学校教育自己診断の「学校行事に満足している」項目について「そう思う」「ややそう思う」併せて60%以上をめざす。 【昨年度：1年生：52%、単位制：60%】</p>	<p>ア・4月にほとんどの保護者と懇談を行い、状況に応じて三者懇談や家庭訪問を実施した(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学校ヒアリングおよび課題生徒に関しての中学校との連携を実施した(◎) 学校教育自己診断の結果はエンパワ52%、単位制58%(△) 学校教育自己診断の結果はエンパワ59%、単位制61%(△) <p>ウ・学校教育自己診断の結果はエンパワ52%、単位制67%(△)</p>
	<p>エ 図書室の活性化</p> <p>オ 部活動の活性化</p>	<p>エ 図書委員生徒を活用し、おすすめ図書の充実とともに、生徒が図書室に来て本を読みたくなるような工夫を行う。</p> <p>オ エンパワメントスクール1年生の部活動加入の推進に生徒部、学年を中心に全教員で取り組む。</p>	<p>エ・図書室の昼休み、4時間目を含む放課後の利用者を前年度よりも5%増やす。 (昨年度2446人)</p> <p>オ・年度末におけるエンパワメントスクール1年生の部活動加入率35%をめざす。 (昨年度：1年生・活動加入率30%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動活性化のため原則3時から4時の会議は行わない取組みを継続する。 	<p>エ・H28；2279人 [前年比：-7%]。(△)</p> <p>オ・H28加入率；35%(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 前期の職員会議で3時から4時の間は職員会議を除き会議を入れない申し合わせを行い、ほぼ守ることができた(○)
	<p>キ 清掃活動の推進</p> <p>(4) 本校独自のキャリア教育の確立 ア 外部人材を活用しながらキャリア教育の推進</p>	<p>キ エンパワメントスクールの生徒は毎日教室の清掃を行う。また、単位制生徒は週1回のHRを利用して教室の清掃を行う。</p> <p>(4) ア・昨年度、ガイダンス部が作成した3年間を見通したキャリア支援計画を、教頭のもとガイダンス部、情報管理部、学年代表で検討し具体化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校に配置される外部人材(CC、SSW、SC)の活用と必要に応じて三者間の連携を図る。 	<p>キ エンパワメントスクールの生徒対象・学校教育自己診断の「清掃活動を進んで行う」項目について「そう思う」「ややそう思う」併せて60%以上をめざす。(新規)</p> <p>(4) ア・3年間を見通したキャリア支援計画を左記のメンバーで検討し具体化し、各学年における指導のテーマと達成目標を明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> CCの効果的な活用を図るため、ガイダンス部長とCCとの連携を密にする。 また、SC、SSWは、学年、年次と保健力カウンセリング部との連携を密にし、生徒の学校生活の安心・安定化を図る。 	<p>キ・学校教育自己診断の結果は51%(△)</p> <p>ア・計画したメンバーで多文化PTを立ち上げキャリア支援計画の具体化について2回検討した(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> CC、SC、SSWと分掌長、関係学年との連携はそれぞれ図ることができた(○)

府立長吉高等学校

2 安心で魅力のある学校へ	<p>イ 生徒のコミュニケーション能力等の向上</p> <p>ウ 社会人としての態度・マナーの育成</p> <p>(5) 人権教育の推進 ア 教員の人権意識の向上</p> <p>イ 多文化共生の学校</p> <p>(6) ア 大学等との連携</p>	<p>イ・長吉高校における教育活動全体を通じて、生徒のコミュニケーション能力、プレゼン能力を伸ばす。</p> <p>ウ・単位制とエンパワメントスクール併存期の生徒指導について、混乱がおきないようにする。エンパワメント生徒については、遅刻や服装・頭髪等について指導を徹底する。 ・生徒が自主的にあいさつやお礼を言うように、教職員から生徒へのあいさつ等の声かけを行う。</p> <p>(5) ア・単位制とエンパワメントの併存</p> <p>イ 学校全体で多様なルーツを持つ生徒をサポートする新たな手法や取り組み、体制を提案する「多文化プロジェクト」(メンバー：教頭、人権文化部長、ガイダンス部、情報管理部、学年主任代表、多文化研究会等)を設置する。</p> <p>ア・学校行事や授業、生徒の学習支援等について大学等と連携する。</p>	<p>イ・エンパワメントスクールの生徒対象・学校教育自己診断に「私は長吉高校に入学して、自分の考えや意見を伝える力がついたと思う」の項目について、「そう思う」「ややそう思う」併せて、50%以上をめざす。 【昨年度：エンパワメント44%、単位制65%】</p> <p>ウ・生徒部学年主担の役割を明確にし、生徒部長との連携を密にし、学年中心の生徒指導体制へ移行する。エンパワメントスクール生徒の学校遅刻を昨年度の10%減らす。 【昨年度：1年生・3816名】 ・エンパワメントスクール生徒対象・学校教育自己診断に「自主的にあいさつやお礼を言うようになった」の項目について、「そう思う」「ややそう思う」併せて、70%以上をめざす。 【昨年度：エンパワ68%、単位制76%】</p> <p>(5) ア・単位制とエンパワメントの併存期における生徒間の諸問題に対応するため、保健カウンセリング部や人権文化部が関係学年、年次と連携し人権研修を実施する。</p> <p>イ・「多文化プロジェクト」を5月までに立ち上げ、①多様なルーツをもつ生徒の教育に関する基本方針の作成、②人権文化部を中心とする新たな体制づくり、③多様なルーツを持つ生徒たちの「学力保障」「進路保障」などについて検討し原案を作成する。</p> <p>ア・2つ以上の大学・専門学校等と連携をめざす。</p>	<p>イ・学校教育自己診断の結果はエンパワ50%、単位制60%(○)</p> <p>ウ・H28 1年生：1978回[H27比：52%] 2年生：1980回[H27比：52%] ※48%減を達成(◎)</p> <p>・学校教育自己診断の結果はエンパワ80%、単位制71%(◎)</p> <p>ア・5月、9月に生徒情報確認研修を実施した(◎)</p> <p>・7月に多文化PTを立ち上げ①～③の項目等について3回検討した。(○)</p> <p>ア・大阪大学(エンパワメントタイムの補助)、IBU(生徒健康診断の補助)、大阪こども大学(産業社会と人間での講演)と授業での連携や高大連携協定を結んで具体的な活動を始めた(○)</p>
3 積極的な情報発信	<p>(1) 中学校等への広報強化 ア エンパワメントスクールの授業公開及び学校説明会等の実施</p> <p>イ 単位制生徒の頑張っている様子を発信</p> <p>ウ 地域や小中学校等との連携した取組みの推進</p> <p>(2) 地域の小中学校との連携の推進 ア 近隣の中学校等との授業見学や教科に関する情報交換</p>	<p>(1)</p> <p>ア・エンパワメントスクールの授業を公開授業週間に公開し、保護者及び中学校の先生方々に見学してもらう。 ・また、HP等通じてエンパワメントスクール生徒の高校生活や授業の様子を掲載し広報活動を行う。 ・さらに、周辺地域の中学校を中心に教職員による(管理職も含む)中学校訪問を行うとともに、エンパワメントスクール生徒を通じて中学校へ広報活動を行う。</p> <p>イ・単位制生徒の頑張っている様子等についてHP等で発信する。</p> <p>ウ・地域清掃などのボランティア活動や出前授業、ゲストティーチャー等、地域や小中学校等へ出かける取組みを進める。</p> <p>(2) ア・近隣の中学校等との授業見学や教科研究等について情報交換し、学校連携を継続的に行う体制を構築する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・HPや校門及び玄関前の掲示板の活用を図る。月に1回は掲示内容を入れ替える。 ・中学校教員向け学校説明会と公開授業を組み合わせ実施する。 ・エンパワメントスクール生徒で長吉高校PR隊を結成(PR隊：20人以上をめざす)し、学校説明会や体験授業等のサポートを行う。また、エンパワメントスクール生徒の出身中学校訪問を10件以上めざす。 【昨年度7件】 ・平野・東住吉・住吉・阿倍野区、八尾市、松原市、東大阪市、藤井寺市、羽曳野市を中心に、管理職を含めた教職員による中学校訪問を年間2回以上実施する。</p> <p>イ・HPや校門及び玄関前の掲示板の活用を図る。月に1回は掲示内容を入れ替える。</p> <p>ウ・保健カウンセリング部が保健委員の生徒を中心に生徒有志を募り、「地域清掃」を年間2回以上行う。 ・人権文化部の指導のもと、外国にルーツを持つ生徒の小中学校へのゲストティーチャーを年間2回以上行う。</p> <p>(2) ア・近隣の中学校等から、本校のエンパワメントスクールの授業見学に来てもらい、その後、授業についての意見交換を行う機会を1回以上もつ。</p>	<p>ア・ほぼ月1回掲示内容を入れ替えることができた(○) ・10月と12月の学校説明会でもジュール体験授業を実施し中学校教員へも公開した(○) ・広報委員として各クラス2名、合計26名で組織し活動(◎) ・18校訪問(◎) ・年間3回実施(○)</p> <p>イ・ほぼ達成(○)</p> <p>ウ・地域の町会に協力し大和川清掃や草引きに合計8回参加した(◎) ・今年度はゲストティーチャー事業の見直しを行い1回だけとした(△)</p> <p>・学校説明会、公開授業週間時に中学校教員へ案内を送り授業見学に来てもらった。今年度は4回実施(◎)</p>
4 ICTを活用した校務の効率化	<p>(1) ICT等の活用により、教職員の事務作業時間の軽減</p> <p>(2) ミドルリーダーの育成及び経験年数の少ない教員の育成</p>	<p>(1) ・校務処理システムやICT等の活用により、生徒情報の一元管理を図る。また、このことにより、教職員の事務作業を軽減し、生徒に向き合う時間を確保する</p> <p>(2) ・ミドルリーダーの育成を図る。 ・教職経験年数の少ない教職員の資質と能力の向上を図る。</p>	<p>(1) ・SSCの掲示板活用と職員室掲示を併用し教職員への日々の連絡体制を徹底する。</p> <p>(2) ・首席候補を育成する。 ・ミドルリーダーの育成または教職経験年数の少ない教職員を対象とした校内研修を1回以上実施する。</p>	<p>(1) ・SSC 掲示板の活用を年間通じて図ることができた(◎)</p> <p>(2) ・候補の育成は行っているが実現には至らなかった(△) ・ミドルリーダーの育成を兼ねて各PTを立ち上げたり業務を遂行する中で人材育成にあたった(◎)</p>